石川県信用金庫協会との連携～地域金融論講義～

代表者名●青木卓志（経済学部地域システム学科・教授）

はじめに（背景・目的・目標）

経済学部では、特殊講義の一つとして、2020年度より「地域金融論」を提供している。近年、地域主権や地方分権が叫ばれている。これは国が主導するやり方から、地域のことは地域が主体となって行うべきという基本理念に基づくものである。地域の実情に見合った金融サービスを提供する地域金融の重要性もそうした文脈で考えるとわかりやすい。一方で、地域金融は、地域人口の減少、地域経済の疲弊、大手金融機関等との競争などにより、厳しい経営環境におかれている。

本講義では、こうした地域金融における現状を踏まえ、地域金融の実際の担い手や地域金融のバックアップをする行政等の方々を迎え、現実の地域金融の現状、課題、将来展望に関する示唆を得ることを目的とした講義である。

活動内容

当該講義は、本学教員の講義以外に、日本銀行金沢支店、財務省北陸財務局、北國銀行等、9つの金融関連機関から講師をお呼びし、実務等も踏まえた講義を行っていただいている。信用金庫に関しても、その重要性に鑑み、本学と連携している『石川県信用金庫協会』に対して依頼し、本講義内で1回ご担当いただいている。毎年、担当していただく信用金庫は異なるものの（石川県信用金庫協会にて選定）、令和6年度は、のと共栄信用金庫からご担当者をお招きし、信用金庫全体の役割やのと共栄信用金庫の取組み等をお話していただいた。

成果、結果の考察

本講義は、最終的には、経済学部（経済学科、経営学科及び地域システム学科）の1年生～4年生の計154名が受講し、前年度並みの受講者数となった。各機関・組織や各担当者のご尽力等により、学生も講義に集中できる環境のもと、熱心に話を聞いていたように見受けられた。とりわけ、令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、今回講義いただいた、のと共栄信用金庫に対しても多くの困難をもたらしたところもあり、こうした震災対応等に関する内容等も講義の中にあったことで、学生は真剣に聞いていたように感じた。

いずれにしても、こうした実務に精通している方からお話を聞く機会は、学生にとってもより良い知識を得るための良い経験になると考えられる。

今後の課題、展望

地域金融論は、既述のとおり、県内で活躍している様々な金融機関等から講師を派遣してもらうスタイルであるが、結果、信用金庫に関しても、その特徴や重要等から、地域産業にとって欠かせない存在であることが、改めて受講学生に認識される機会となっている（もちろん、他の金融機関等の重要性も同様である。）。こうした実務担当者からの経験に裏打ちされた講義は、大学教員による理論的な内容と絡み合い、より良い理解につながっていると感じている。本学の学生が信用金庫の仕事に興味を持ち、将来的に、信用金庫で働くという選択肢の一助にもなってもらえることも期待するものである。

（参考）上記写真は、のと共栄信用金庫が講義内で使用した資料の表紙の一部である。